

発行:余市協会病院

発行日:平成 29 年 6 月 1 日

発行人:吉田 秀明

編集人:広報委員会

お問い合わせ:0135-23-3126

VOL.156 6月号

## はつらつ Plus

## 菊地医師着任のご挨拶



4 月 1 日より当院外科に着任させていただきました菊地 健と申します。よろしくお願いいたします。H5 年に大学を卒業し、北海道大学消化器外科Ⅱに入局しました。大学院での研究テーマはすい臓がんの神経周囲浸潤で、裏表を使い切り 8 年で卒業しました。研修後、国立札幌南病院(簾舞、現在閉院)、国立西札幌病院、国立北海道医療センターに勤めさせていただきました。

前半は結核や非結核性抗酸菌症、膿胸、肺癌などの呼吸器疾患と消化器を、後半は消化器外科に携わってきました。体を動かすことが好きです。特にスキーが大好きです。若いころは海でダイビングなどもしていました(最近はずぱりですが)。小樽協会病院に 2 年在籍いたしましたので、その経験を活かし小樽・後志の医療に更に貢献できるよう力を発揮したいと考えております。余市町周辺の医療ニーズを理解し、近隣の医療機関との連携を大事にしながら、皆さまのお力添えになれるよう頑張ります。



## フットケア外来とは!?

フットケア外来担当の中島です。2016 年 2 月から開設したフットケア外来についてお話ししたいと思います。フットケアという言葉は最近よく聞く言葉だと思いますが、いかがでしょうか？

## 糖尿病の“足”を救うことから始まった取り組み

日本の糖尿病患者は 316 万 6000 人(平成 26 年患者調査の概要/厚生労働省)と、平成 23 年度の調査では 270 万人でしたから 3 年間で 46 万 6000 人も増えています。糖尿病の 15~25%が足潰瘍を経験し、適切な治療がなければ糖尿病足潰瘍の 14~20%が切断に至るといわれています。こうした状況の中で患者さんが足切断に至らない為の取り組みが本格的に始められ、足を救う為に国を上げての取り組みになったのです。

## 当院でも 2016 年 2 月から、フットケア外来を開設！

初回時は 5 つの項目を評価します。

- 1.皮膚や爪の状態
- 2.知覚・痛覚・触圧覚・アキレス腱反射など
- 3.足の変形はないか
- 4.血流の状態
- 5.普段はいている靴、靴下が合っているか

その後、足浴・爪切りをします。最後に爪の状態で次回のケア日を決定し予約を入れています。足に潰瘍ができないように継続してケアしていくのです。

## お気軽にご相談下さい！

爪切りなどで傷を作り、そこから感染して傷が広がり最終的に足の切断につながるケースも少なくありません。足を出すのが恥ずかしいと感じる方も多いのですが、切断という最終手段の治療にならないように、足のことで気になることがある方は是非一度フットケア外来にお越し下さい。フットケア外来を受診する時は主治医にお話しして下さい予約を入れます。または直接主治医がフットケア担当の看護師に連絡いたしますのでお気軽にご相談下さい。



# 研修医リレーコラム 91 「尿路感染症」

こんにちは！4月の間お世話になりました、手稲溪仁会病院 研修医の伊野永隼です。外来でお会いした方、院内でお会いした方、たくさんいらっしゃいますが、日々勉強させていただく毎日であります。

## 尿路感染症について

さて、今回は高齢者の発熱の原因として実はとても多い、尿路感染症について簡単にお話したいかと思えます。まず尿路感染症というと、なじみがない人も多いかもしれません。尿路感染症には「尿道炎」「膀胱炎」「腎盂腎炎」などがあります。こちらの言い方の方がなじみがあるでしょうか？

尿道炎、膀胱炎では熱がでることは少ないですが、おしっこが近くなる、おしっこの時に痛みがあるという症状が多いです。

腎臓まで菌が感染してしまった状態が腎盂腎炎です。ここまできると高熱が出てしまいます。さらに、血液中に菌が入り込んでしまうと、他の臓器障害、意識障害が出ることもあります。

## どうやって感染する？

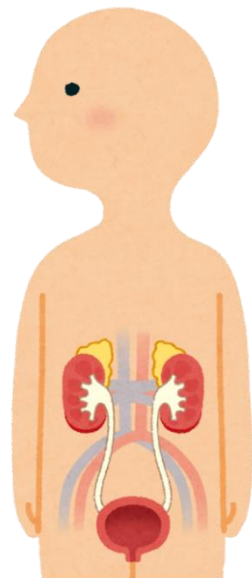
そもそも「感染症」ということは、どこから菌が入り込んだ、ということですよね？いったいどこからやってきたのでしょうか？

実は尿路感染症のほとんどが腸の中にいる細菌によって引き起こされます。外から尿道を通っておしっこの流れとは逆の方向に入り込んで発症することが多いのです。これは元気な人でもおこりうるのですが、十分な量のおしっこ排泄があれば流れて行ってしまうのでとてもきれいな環境が保たれているのです。

しかし、歳をとってくると病気が増えてきます。泌尿器科の病気をもっている人、男性であれば前立腺肥大症、神経因性膀胱(膀胱と尿道がうまく働いてくれない病気)によっておしっこの流れが悪くなると感染しやすくなってしまいます。

## 尿路感染症にならないためには？

- ①適度な運動をする
- ②水分は日中多め、夕方からは控える  
(※ただし、お医者さんに飲む量を指示されている場合は指示通りに！)
- ③トイレを我慢しない
- ④アルコールは控えめに
- ⑤尿漏れパッドなどは定期的に交換する
- ⑥陰部を清潔に保つ、排便時は前から後ろに拭く
- ⑦全身性疾患や泌尿器科の病気の治療を正しく受ける



しかし、完全に防ぐことはできません！かかってしまったと感じた時には我慢せずにお医者さんに相談してください！ 手稲溪仁会病院 研修医 伊野永隼



救急件数(5月)

外来受診213件 うち入院36件  
救急車来院71件 うち入院21件

facebook

いつも”いいね!”ありがとうございます!